

高齢者のからだに合った医療を創る

日本の老年医学のはじまり

櫻園通信55. 令和元年9月
東京都健康長寿医療センター
養育院・渋沢記念コーナー
連絡先: 老年学情報センター

宮本孝一 老年学情報センター



老年医学（老年病学）は、高齢者特有の病気についての原因説明、予防、診断、治療を目的とした医学の一分野です。

一般に医療は、消化器科・循環器科のように、体の各部分（臓器など）別に区分されています。しかし、特定の臓器だけみる治療は高齢者の病気にはなじみません。

全身の臓器の状態、精神状態、生活上の必要動作への障害、生活環境の整備など、人の存在まるごとに関わるのが老年医学の特徴です。

子ども特有の健康問題に対しては、すでに昔から小児科学という分野が内科から分離独立しています。「小児科」です。同様に、高齢者に特有の健康問題に対しては、独立した分野「老年医学」が必要です。そのことを尼子富士郎は80年以上も前に主張し、浴風会病院と東京大学で老年医学の研究と指導を進めました。



養育院開設
1872（明治5）年



養育院に医療施設を開設。医療は東京府病院に委任。
1874（明治7）年

養育院の医療を東京帝国大学に委任。
1890（明治23）年

震災で大塚の養育院本院が倒壊。板橋に移転。1923（大正12）年

渋沢栄一銅像建立。
1925（大正14）年

関東大震災

内務省が、震災で被災した身寄りの無い高齢者を保護する財団法人**浴風会**を設立。
1925（大正14）年
翌年、施設**浴風園**開設。

尼子富士郎
老年医学の創設に邁進
(医療・研究・教育)

尼子富士郎、浴風園に赴任。病室の医長に。
1926（大正15）年

入澤達吉、東京帝大から養育院へ。（1897～1902）



尼子富士郎、東京帝国大学医学部を卒業。そのまま医学部内科に所属。
1919（大正8）年

東京大学開設
1877（明治10）年

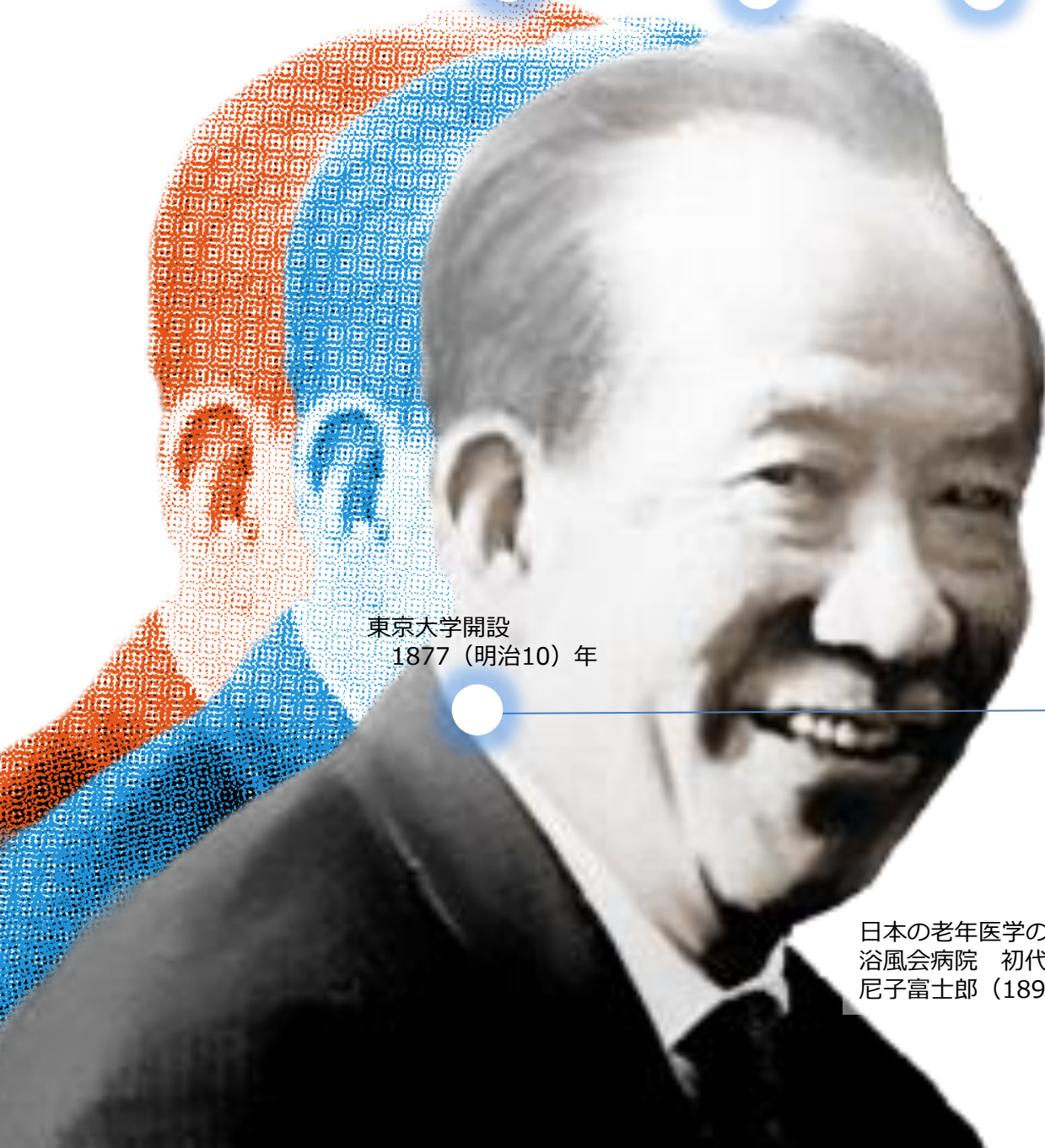
入澤達吉、養育院での経験をもとに**日本初の老年医学の教科書「老人病学」**を刊行。上巻1911年 下巻1913年



尼子は、師の稲田達吉教授から「誰も手をつけていない老人医学を極めなさい」と、浴風園勤務を薦められた。

「老人病学」は、養育院・渋沢記念コーナーでも展示中。

日本の老年医学の創設者
浴風会病院 初代院長
尼子富士郎（1893-1972）



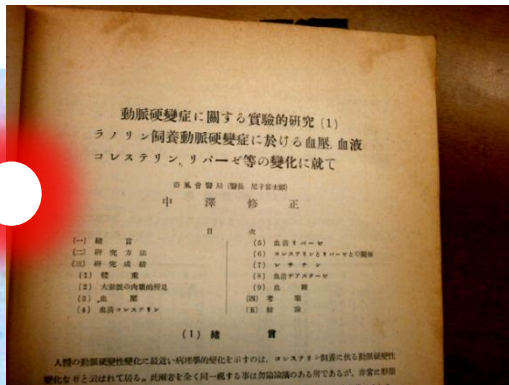
1972年、東京都は養育院に新しい病院を創りました。そこには村上元孝（初代院長）をはじめ、尼子富士郎の元で老年医学を学んだ専門家が集められ、高齢者対象の医療・医学研究の新拠点となりました。

養育院の病院（東京都老人医療センターに改称）は、東京都老人総合研究所と経営統合し、現在の東京都長寿医療センターになりました。

「健康寿命を保つにはどうしたらよいか」「健康問題があってもよりよく人生を生きるためにどのようなことが有効か」…超高齢社会が到来した現在も、尼子富士郎がめざした老年医学の確立・発展の営みは脈々と受け継がれています。

渋沢栄一死去。
1931（昭和6）年

尼子富士郎、**世界初の老年学専門の学術雑誌「浴風園調査研究紀要」**刊行開始。
1928（昭和3）年



太平洋戦争

浴風会の管理は、内務省から厚生省に変更。
1938（昭和13）年

病室は**浴風園病院**に改称。尼子富士郎は初代院長に就任。
1959（昭和34）年

老年医学・老年学の国内外の論文を網羅した文献目録「**老年学文献集**」発行開始。
1962（昭和37）年

尼子富士郎、東京帝国大学で老年医学の講義を担当。
1928（昭和3）年～
1953（昭和28）年



「老人期における疾患は壮年期の夫れとは種々異なる特徴を示し、又老年期のみに見られる特異な疾患も存在する」とし、内科学から小児科学が独立したのと同様に老人病学の独立性を主張・・・尼子富士郎「**老年者の生理及病理概論**」1935（昭和10）年

尼子富士郎、東京大学で1953（昭和28）年まで講義。



大戦前の老年医学は「いかにして寿命を延ばすか」を目的にしていた。大戦後、老人の人口が増えてからは「健康な身体、生活の経済的な安定、知性の衰えを防ぐこと、をめざすのが老年学の目的である。医学・心理学・社会科学の研究者が協力して研究を進展させなければならない。・・・第2回日本老年学会総会 尼子富士郎会長講演 1961（昭和36年）

浴風会病院に改称。
1971（昭和46）年

尼子富士郎、院長退職。
1968（昭和43）年

日本初の老年病学教室を開設。
1962（昭和37）年

高齢社会総合研究機構を設置。
2009（平成21）年



日本初の老人専用総合病院**養育院附属病院**の開設。日本初の老年学・老年医学の総合研究機関**東京都老人総合研究所**開設。
1972（昭和47）年

入所者専用病院から、地域の一般の患者を治療する高齢者専用病院に方向転換。1981（昭和56）年

高齢者保健医療総合センター（浴風会病院+老健くぬぎ）オープン。
2014（平成26）年



村上元孝 附属病院初代院長
亀山正邦 副院長
豊倉康夫 第2代院長
蔵本 築 第3代院長
小澤利男 第4代院長
そのほか、東京大学と浴風会で老年医学を学んだ全国各地の専門家が養育院附属病院へ。



板橋ナーシングホームの開設。
1976（昭和51）年

養育院附属病院を東京都老人医療センターに改称。
1986（昭和61）年

養育院条例廃止により、都の組織上「養育院」はなくなる。
2000（平成12）年

